みやぎ観光振興会議登米圏域会議
【日時】令和8年10月29日（木）午前10時から正午まで
【場所】宮城県登米合同庁舎2階　203会議室

【委員からの主な意見】

① 「イベント一覧」と「宿・タクシー会社の一覧」をセットにしたチラシを作成、配布すると良いのではないか。
② 大きなイベントがありシャトルバスを用意する等があれば、そういった情報を駅やその他交通事業者へも伝えていただけると助かる。
③ 登米市内では様々なイベントがあるが、イベント同士の連携があまりないなと感じる。風土マラソンには海外からもたくさん来てもらっているので、そのポテンシャルが登米の他のイベントにもある。各イベントや各団体で連携をして、さらに良いものをつくっていきたい。
④ 登米地域のPRの仕方にズレを感じる。そのズレを補正していくだけでも違うのではないか。とよまは「なつかしい」ではなく、若い人にとっては新しいもの。私の世代でもなつかしさは覚えない。油麩だって、料理に使う際に出汁を別に加える必要がないので、「出汁いらず！」とパッケージに書くだけでも売れ方が違うのでは、と思う。
⑤ 海外の方の受入に関しては、登米地域ではまだまだ改善の余地がある。まずは足を運んでもらわないと地域事業者として危機感が出てこない。
⑥ 市では景観形成会議というものがある。市としてどこを守っていきたいか、大切にしていきたいかといった部分を知ることもヒントになるのではないか。
⑦ 宿泊に繋げるためには、夕方や夜に企画を実施する必要がある。みやぎの明治村で「ナイトミュージアム」という企画として、夜に謎解き体験をしてみたり、他団体で実施している「竹あかり」も同日に実施してみたりして、親子をターゲットにして呼び込む等が考えられる。
⑧ 担い手不足も深刻な問題。みやぎの明治村では観光ガイドと着付け体験を現在実施しているが、担当職員の高齢化が課題。新規のもので人を呼び込むのも大切だが、今ある体験・サービスがなくなってしまうのはとてもマイナスなので、現状維持のために努力する部分も必要。
⑨ 観光と食は切っても切り離せない。登米市では「はっと」と「油麩丼」が郷土料理として有名だが、「はっと」に比べて「油麩丼」のPRが少ないのではないかと感じている。「油麩丼」をもっと売り出してもいいのではないか。
⑩ グリーンツーリズム協議会では国内学生の教育旅行対応も多いが、縄ない、草刈り、庭先での花火など田舎ならではの体験がとても喜ばれる。
⑪ 箱もののブラッシュアップは限界がある。
農業体験で、田植えや植え付けをやってもらい、その後の生育状況をライブ配信や写真を

送付してあげる、できた野菜やお米を送ってあげる。お米だったら、油麩丼のレシピもつけてあげるのもいいかもしれない。2回、3回と来てもらえる工夫・仕組みづくりが大切ではないか。何にしてもストーリーづくりが大切。伊達政宗の弟の墓が津山にあること、東和の隠れキリシタン等意外といろいろなものがある。日本ではタブー視されがちだが、宗教関連ツアー等の売り方もあるのでは。

⑫ 宿泊事業者部会での意見交換では、資料3に記載のとおり、大きく分けて2点、「二次交通」と「観光コンテンツ磨き上げ」に関して意見が多く出た。

二次交通については、ライドシェアなど交通手段が充実していけば、リピーターや長く滞在していただけるお客様が増えるのではないかといった意見であった。観光コンテンツ磨き上げについては、とよまの明治村やお茶体験、農業体験等、様々考えられるといった意見であった。

⑬ ツアー会社に農業体験を組み込んだ商品を造成してもらうのもいいのでは。

⑭ 市内の観光に関わる人達の意識改革も必要。インバウンドを受け入れるための先進事例やメリットデメリット等を勉強する研修や、コンテンツを作り出すワークショップの実施を観光関係者向けに開催するのはどうか。

⑮ 観光PRについてはこれで十分というものはないと思うので、毎年新しいものを取り入れつつ、発信を続けることが大切。

⑯ ライドシェアについては、実施はタクシーが不足する夜間等だろうが、飲み会後の酔っ払いを一般ドライバーが乗せるというのはなかなかハードルが高く、難しいのではと感じる。

⑰ 現在 SNS では不特定多数に向けて登米の観光 PR をしているが、登米地域へのリピーターになりそうな方をファンクラブのような1つのグループにし、その方向けに企画やツアー等のお知らせをすると効果的ではないか。来年、石越醸造は 100 周年。そういったものも組み合わせてツアーを作ってみたりして宿泊に繋げたり、お土産を買えるスポットを組み込むことで市内のお店にお金が落ちるように設計するのはどうか。また、FAM ツアーの実施もいいではないか。